



鎌田地区	令和元年 11 月 1 日現在
世帯数	8,959 戸
男	9,943 人
女	9,580 人
発行者	鎌田地区公民館 公民館報編集委員会

実りの秋の発表・発信

鎌田中学校 しらかばの日 信明中学校 飛翔祭

鎌田中学校では9月28日(土)に「しらかばの日」が、また信明中学校では27日(金)・28日(土)の両日「飛翔祭」が、それぞれ多くの保護者や地域の皆さんの来場を得て盛大に開催されました。

2021年度から「主体的・対話的で深い学び」の視点で学習指導要領が見直されるため、あらゆる教育活動の場面において「どのように学ぶか」という能動的な学びが求められるそうです。



練習した理科マジックを地域の皆さんに披露(鎌田中学校)

これを受けて鎌田中学校では、例年2日連続開催していた「しらかば祭」を、今年は「しらかばの日」と「体育祭」の時期をずらして開催するよう見直ししました。特に「しらかばの日」は、町会ごとに編成された23のグループが、それぞれのテーマで問題解決学習を進めてきたKMDタイムの活動と伝統の歌声を、日常の学びの成果として発表・発信する機会とし、生徒の主体的で対話的な活動の場面が設けられていました。

「しらかばの日」と「体育祭」の時期をずらして開催するよう見直ししました。特に「しらかばの日」は、町会ごとに編成された23のグループが、それぞれのテーマで問題解決学習を進めてきたKMDタイムの活動と伝統の歌声を、日常の学びの成果として発表・発信する機会とし、生徒の主体的で対話的な活動の場面が設けられていました。

体育館や教室などを会場に、英語劇や理科マジックの発表あり、地域食材の活用というテーマからポスターセッションをしたり、アップルパイやフルーツポンチなどをふるまったりしているブースありと、楽しい雰囲気の中で自主運営されていきました。多くのグループが、「地域貢献」をキーワードとして活動を重ねていたことが印象的でした。



3年生が講座別学習で制作した書道作品(信明中学校)

「去年まではステージに上った人が主役だったけど、今年自分たちみんなが主役になれるのが楽しい」と語ってくれた三年生の笑顔が清々しい「しらかばの日」でした。

信明中学校の「飛翔祭」の今年のテーマは「僕らの手でつくりあげろ」でした。初日は学年別の学習報告をはじめ広島平和式典や姫路市との交歓キャンプ参加者のステージ発表があり、午後はクラス全員が力を合わせる団体競技「信明オリンピック」で盛り上がりました。2日目は伝統の「合唱コンクール」を開催し、各クラスの思いが一つになって素敵な歌声が披露されました。

街かどのお話 144

鎌田中学校総合的学習
ベンチを
製作して寄贈



鎌田中学校3年
平林文成(征矢野町会)



製作したベンチを野々宮神社例大祭で寄贈

僕たち鎌田中学KMDタイムの征矢野3グループ(23人)にはいくつかの「壁」がありました。まず、全員でテーマとする地域の課題を話し合いました。その中で、毎年10月の征矢野の野々宮神社の例大祭は人出が少なくてさみしいという意見が出ました。町会の人たちにも聞いてみると、同じように感じている人が多くいて、グループの活動テーマは「お祭りへの参加」と決めました。お祭りに積極的に関わりたいと思ったので、屋台を出そうと考えて、町会の担当の方に話をしてみたところ、金銭的な面などで難しいことがわかりました。

そこで、他に出来ることを話し合ったとき、お祭りのときなど境内には座る場所がないので「ベンチを作って置いたらどうか」との意見が出ました。

その結果、当日は大勢の人がお祭りに集まってくれました。「壁」をみんなの力で何度も乗り越えてテーマに合った活動を行うことができ、とても良かったです。

みんなが頑張った作ったベンチはたくさんの人に喜んでいただき、自分たちが住む地域の役に立てたという実感ももて、とてもうれしかったです。

した。町会役員の方の了解をもらい、学校でベンチ3基を製作しました。

作るときは電動ドリルなどの道具の使い方を覚えるのが大変でしたが、完成したとき達成感がありました。ほかにも、神社の境内清掃をしたり、お祭りがあることを知らせるチラシを作ったり地域の家々に配ったりもしました。

鎌田お宝講座 一第5回一

鎌田地区南部の発展

10月28日、鎌田地区公民館文化委員会の主催で開催しました。講師の小松芳郎氏(松本市文書館特別専門員)は、「鎌田地区南部についての歴史資料は少ない」と前置きした後、江戸時代の各村が用水の問題で合併と分村を繰り返して来た過程を資料と地図を使い、詳細に講義されました。江戸時代この地域には、小島村(井川城)、鎌田村、征矢野村、両島村、高宮新田村(高宮)、笹部村がありました。明治22年に松本市となり、大正14年に松本市に合併しています。この頃は戸数も人

口も少なく、田畑や沼、芦の原が広がっていました。現在の自衛隊駐屯地とIアグリテックの敷地は大正14年に飛行場として、昭和3年には競馬場も併設して活用されていきました。昭和38年に国道19号バイパス(現国道19号)が出来ると、その利便性から急激に鎌田地区南部は発展を続け現在に至っています。石芝東、石芝町、五月町、月見町、昭和町、南原町、弥生町は昭和21年から53年にかけて誕生しています。

鎌田地区の歴史については地区公民館で講座開催や古い写真のデジタル化などの事業を行っています。地域の歴史をひもといて、古人の思いに慕って見るのもいいと思いませんか。



「江戸時代の町村図」の一部(昭和8年作成)

鎌田地区の歴史 ⑥



五月町町会の発足当初の笹部地域

(昭和41年・月見橋から北東方向を望む)
五月町と同じく県企業局が分譲した月見町町会の誕生は昭和39年。松本市史には「都市化の進行にともなって土地利用変化が大きかった地域は笹部」とある。

歴史探訪バス講座 長野県の国宝を巡る

県内にある国宝の価値や歴史を学ぼうと鎌田地区公民館運営委員会が企画し、9月18日に講座を開催しました。

庄巻は県立歴史館(千曲市)の記念展「戦国小笠原三代―長時・貞慶・秀政―」でした。戦国から近世への激動期を生き抜き、井川城にもゆかりが深い信濃守護・小笠原家の全容を、国宝7点の展示をはじめとする多彩な資料から推察できる内容でした。

昼食後は青木村にある「見返りの塔」で有名な大法寺・三重塔を鑑賞しました。1333年に建てられ、奈良や京都の建築物に遜色しない美しさと、周囲の風光との調和により国宝に指定されている。

歴史館の見学は時間が足りずに心残りでしたが、山腹の緑の中に立つ2つの国宝は風雪を経た品格を感じる建造物で、歴史の奥深さを堪能した一日でした。

定されています。別所温泉の安楽寺・八角三重塔は、木造の八角塔としては全国で一つしかない

い貴重な建築で、昭和27年に松本城とともに県内初の国宝指定を受けています。建立は鎌倉時代末期の1290年代、我が国最古の禅宗用建築です。



戦国小笠原三代展(県立歴史館)

雑感

先月、東京を起点に仙台からバスで岩手、秋田、青森の各県をめぐる東京に帰る「東北の隠れた紅葉名所をめぐる」ツアーに参加し、八幡平や積雪の多さで有名な酸ヶ湯温泉近辺のブナ林やナナカマドの紅葉を楽しんできた▼旅の途中「平泉―仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―」としてユネスコの世界文化遺産に登録されている中尊寺を見学した▼国宝の金色堂は天治元年(1124年)建立の中尊寺創建当初の姿を今に伝える建造物で金箔で覆われた阿弥陀堂である▼内陣は螺鈿(貝殻)細工、蒔絵などの漆工芸や精緻な彫金

がほどこされ、須弥壇には藤原氏三代の遺体が納められている▼かの松尾芭蕉翁が平泉を旅した時に「五月雨の降り残してや光堂」と「長雨が全ての物を朽ちさせたのにこの光堂だけは降り残したのだからか」と詠んだように数百年を経た今も皆金色を残す阿弥陀堂は、厳かさを残していた▼都から遠く離れた陸奥の地に、平安仏教美術の花を咲かせた豪族の力の凄さを感じた一時だった。(松川 靖彦)